

愛川東中学校 第2学年 音楽科 指導計画

(6月3週～・5時間)

目標 (身につけさせたい力)	歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
学習内容	○日本歌曲の美しさは日本語の語感を生かした表現にあることに気付かせる。 ○歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取って曲にふさわしい音楽表現を工夫する。
単元・教材	「夏の思い出」 江間章子 作詞／中田喜直 作曲
言語活動	①グループ活動での話し合い ②グループでの考えを説明、発表

前回の課題（キーワード）及び改善の視点

<p>『生徒が主人公』 もっと生徒の発想を生かすために、時間の取り方や投げかけの工夫が必要。 本単元の改善案：教師側の実演→個人の考え→グループでの話し合い→発表 今回は、個人の考えの前に、教師が実演することで、個人の考えを考えるための手助けとさせたい。</p> <p>『わかりやすさ』 自主的な活動になるよう、説明・グループ活動・掲示・ワークシートなどを工夫する。 本単元の改善案：私なりには以下の2点を改善案としてあげたい。 説明→個人の活動の前に、教師側が例をあげる。また実演してみせることにより、これから取り組む活動へのイメージを持たせる。 グループ活動→個人の考えをしっかりと持たせてから、グループで意見を伝え合えるようにする。</p>

単元・学習材について

<p>日本歌曲の美しさは日本語の語感を生かした表現にあることに気付かせたい。例えば、“水芭蕉の花が咲いている”の部分では、“はなが さいている ”の休符の部分の一瞬の静寂と、次の旋律へのきっかけとなるピアノの1点ト音により音楽の連続性が高まっていることに気付かせ、表現に深まりを持たせるようにしたい。</p> <p>生徒の大半は尾瀬については知らないだろう。しかし、そこで尾瀬にこだわってイメージを膨らませるのではなく、生徒の身近な自然を思い浮かべさせ、生徒自身の経験の中から自然の美しさに対する興味・関心を高めるようにしたい。</p>
--

音楽への関心・意欲・態度

①歌詞の内容や曲想などに関心を持ち、それらを生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

能力育成のプロセス

記録するための評価：◎ 指導に生かすための評価：○

次	時	具体の評価規準			Bの状況を実現するための手立て
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	
第一次	1・2			正しい音程・リズムで歌うことができる。(観察：○)【③】	・巡回指導をし、正しい音程を聴かせる。
第二次	3			鼻濁音や子音を意識し、日本語をきれいに表現できる技能を身につけている。(観察：○)【③】	・発声練習時から子音を意識して歌わせる。 ・メロディーにのせて歌わせるだけでなく、単語を取りだして発音の練習をする。
第三次	4 (本時)		言葉と旋律の関係、フレーズを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取り音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。 (ワークシート：◎)【②】		・記号の意味を確認する。 ・前時の情景をイメージしたものを振りかえらせる。
第四次	5	歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かし、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(机間指導：○)【①】		「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、日本語の発音などを身に付けて歌っている。(観察：○)【③】	・技術的なアドバイスを適宜行う。

音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
②音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わう、曲種に応じた発声や言葉の特性を理解する、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解するなどして曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	③創意工夫を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

授業計画			
次	時	学習活動 (下線は言語活動)	注意事項 ※手立ての例
第一 次	1 ・ 2	曲の構成や旋律を理解する。 ①作詞者、作曲者、楽曲の成り立ちを理解する。 ②旋律を把握する。 ・二部形式の各段の旋律形を理解する。	*一人一人観察し、姿勢や口の 開け方を注意する。
第二 次	3	歌詞を読み取る。 ①情景をイメージする。 ・尾瀬、石楠花色、浮き島、水芭蕉の花などを解説するとともに、 身近な自然を思い浮かべ情景をイメージする。 ②日本語の発音に注意する。	*イメージがしやすいように、 写真やイラストを見せる。 *日本語の発音に関しては、発 声練習の「さわやか」とも関連 してくる。
第三 次	4 (本時)	表現を工夫して歌う。 ①歌詞や旋律から具体的なイメージを持ち、表情記号が書かれていない楽譜に、強弱記号などを用いて曲の表現を工夫する。 【ワークシート】 ②グループごとにイメージを話し合い、強弱記号などを用いて、自分たちの「夏の思い出」を発表する。	*各記号の意味を復習し、その 記号を用いて表現を工夫させる。
第四 次	5	まとめ ①作曲者の感じた「夏の思い出」を、歌詞が表す情景や心情から感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫する。	*旋律の動きを線で結び「山」 を意識させる。

〇 〇 科 学 習 指 導 案

授業者：_____

日 時：_____

分	評価規準（B規準）	学習活動	留意点

補 次 回			
40			